

「チベット問題」を読み解く

伊藤善高

第1章 チベットの歩み

第1節 チベットの基本情報

チベット → ヒマラヤ山脈北の高原
面積 約129平方キロメートル
人口 540万人

チベット語の使用 → 集団
= チベット人と定義

第2節 仏教の導入

7世紀 チベットの統一王国 = 吐蕃

吐蕃のティソン・デツェン王

→ 仏教の導入

大乘仏教のインド仏教最高学府の大学僧

シャーンタラクシタを招集

インド仏教を幅広く布教

小乗仏教の中国仏教 → 勢力拡大

794年サムイェー寺で

インド仏教と中国仏教が対決

3年間も論争が継続

ティソン・デツェン王

インド仏教の勝利宣言

チベット仏教の根源はインド仏教

第3節 モンゴルとの関係

1239年 チベットの統一政権の皆無
→ モンゴルの軍事力は強大

∥

モンゴルに無条件に降伏

1253年
チベット仏教最高権威パクパ・ロド

×

モンゴル皇帝フビライ・ハン

↓

チュ・ユン関係を結束

チュ・ユン = 施主と説法師

1260年 フビライ

チベット仏教 = 国教



パクパにチベットの政治権威授与



チベット = 独立を回復

判断

第4節 清王朝

1636年 清初頭のチベット

外部強国 ≠ 従属、 独立を維持

清の軍事力 > チベットの軍事力

地理的優位 = 独立を保持

ダライ・ラマ

宗教的な最高権威 + 政治的な最高権威

= ダライ・ラマ政権成立

1645年 **ダライ・ラマ5世**

ガワン・ロサン・ギャンツォ

ポタラ宮造営を命令

1653年、北京に**ダライ・ラマ5世**を招集

清の皇帝世祖順治帝 × **ダライ・ラマ5世**

チュ・ユン関係の結束

歴代ダライ・ラマとチュ・ユン関係継続

1906年

イギリスと清、英清西藏条約の締結

1910年

四川雲南辺務大臣の趙璽豊

ラサに進撃



ダライ・ラマ13世インド亡命

第5節 中華民国

1911年、辛亥革命 = 中華民国が誕生

1913年 チベット

「五箇条宣言」を发表 = 独立を宣言

外交的動乱



チベット独立は保留

チベット地方政府 = 独立、中立姿勢
を継続

第2章1949年～1959年のチベット

第1節 中華人民共和国成立

1949年10月 中華人民共和国成立

ラジオ北京

「人民解放軍 = 中国全土を解放
チベット含有」
と放送

チベット = 帝国主義者に侵略
「チベット人民 = 人民解放軍を所望」
と宣言

当時 実際チベット = 白人6人



チベットへの軍事侵略の口実

1950年10月 人民解放軍

東チベットと北チベットの侵攻



チベット軍大敗

1950年11月

国際社会、国連の支援の希望皆無



ダライ・ラマ₁₄世

北京に代表を派遣

中国 = 直接対話決定

第2節 17ヶ条協定

1951年5月

チベットの代表 = 一切決定権皆無

中国側代表、合意文書を用意

合意の皆無 人民解放軍 → 侵攻続行
軍事力で合意強制

17ヶ条協定の内容

中国軍チベット侵入許可

チベット外交権 = 中国政府委譲

など

チベット不利

1959年 ダライ・ラマ14世インド亡命後

17ヶ条協定の拒否宣言

第3節 反中国ゲリラ活動

1950年までチベット = 大衆暴動皆無

反中国抵抗運動 = 中国侵略 → 開始

1956年

東チベットのカムとアムド → 衝突発生

→ 3年間の抵抗運動 → デモに変化

1959年3月 ラサで大規模なデモ発生

何万人のチベット人

→ 人民解放軍に虐殺

8万人の難民産出

チベットの各地 = 中国一部に編入